

# 「日輪杯空手道交流選手権大会競技規程」

## (形競技)

1. 競技は赤、青のフラッグ式、トーナメント制を採用。
2. 各コートにて決勝まで行う。
3. 幼児の部は平安、ピンアン、ゲキサイなどより選出。同じ形を何度使用してもよい。
4. 小・中学生は1、2回戦は基本形（平安、ピンアン、ゲキサイなど）より選出しベスト8以降は指定形、自由形でもよい。ただし小学生は1回戦から決勝まで同じ形でもよい。中学生は男女共、決勝戦のみ予選で使用した形を使用してはならない。  
3位決定戦は小・中学生とも予選（1、2回戦を含む）で使用した形でもよい。  
なお参加人数、トーナメントの都合上、1回戦が決勝戦となる場合は指定形、自由形でよい。2回戦目が決勝戦となる場合は1回戦は基本形から、2回戦（決勝）は指定形、自由形で行うこと。
4. 高校生・一般・シニア男女については1回戦は「第1指定形」より選出、2回戦以降（3位決定戦を含む）は指定形、自由形とする。また1回戦がトーナメントの都合上、小さい山のブロックの場合、次戦も「第1指定形」を演武。その際は同じ「指定形」を続けて演武してもよい。決勝戦は一度演武した形を使用してはならない。  
なお、参加人数の都合上、1回戦が決勝となる場合は指定形、自由形でよい。  
2回戦が決勝となる場合は、1回戦で使用した以外の形を行うこと。
5. 選手は演武する前に必ず演武する形名を記録係に伝えること。
6. 選手は礼節を重んじ、入退場の際は審判、対戦相手にきちんと礼をすること。

## (組手競技)

1. 競技はトーナメント制。審判は6人制（監査役含む）。ただし、当日審判員の人数が少ない場合、審判長の判断で5人制（監査役含む）へ変更する。
2. 組手競技の勝敗は各クラスとも6ポイント先取とする。（先取制採用）
3. 各コート決勝戦まで行う。
4. ポイントの参考例は、突き技が上・中段とも1ポイント。蹴り技は中段が2ポイント、上段が3ポイント。相手を足払い等で倒した技からの突き技は3ポイント。
5. 競技時間については幼児が1分間のランニングタイム、小・中学生・シニアが予選～決勝戦まで1分間フルタイム、高校生以上については男女共予選～決勝戦まで1分30秒のフルタイムとする。
6. 各安全防具は全空連認定のノンコンタクト用を採用。それ以外は認めない。
7. 当大会は10カウントルールは採用しない。
8. カテゴリー1、2の反則について審判員は厳しく対処し、事故の未然防止に心がける。
9. 倒れた、もしくは倒した相手に対する「蹴り」による攻撃は危険行為とし、技が決まってもウォーニングとする。（※突きはポイントとみなす）
10. 選手は礼節を重んじ、入退場の際は審判、対戦相手にきちんと礼をすること。

※各競技の判定はコート長および主審に一任し、判定についての抗議等は一切認めない。

「ゼッケンについて」ゼッケンシートはこちらで用意しますので、下記要領にて作成ください。

小1 男子	
(赤字)	(黒字)
1	2

・・・クラス（黒字）

・・・番号「向かって左が形（赤字）、右が組手（黒字）」